

あとがき

核データニュースの前身“JNDCニュース”第1号が出たのは1966年3月のことですから、今年でちょうど20年になりました。今号はOB先達の方々に一筆お願いして巻頭を飾っていただき、「記念号」としました。本誌の役割はシグマ関係の情報をお知らせしたり、関係会合の出席報告あるいは核データセンターが入手した資料を紹介することにあります。この種のもの一方交通にすぎれば、たちまちマンネリになり読む方も作る方もなんとなく機械的になってしまうものです。3号雑誌という言葉があります。創刊してはみたものうたかたの如く消えて行く雑誌のことです。ものは試し、核データセンターに保存されている第4号を開いて見ました。どういうわけか、この号だけがゼロックス版袋とじになっていました。ストックが底をつくほど好評だったのでしょうか。あとがきは中嶋龍三氏。読者への気くばりが強調されました。作る人のほど良い気負いと読む人からのほど良いレスポンスが支えになって20年60号となったと思いました。ちなみに初代編集スタッフは百田光雄・大野善久・岩城利夫・飯島俊吾の皆さん。後に五十嵐信一氏が加わったと記録されています。評価された核データの一層の普及にも役立ちたいというのも、昨年来の“新装開店”の目的のひとつです。シグマ関係以外の人にも読みやすい記事、一味ちがった会議の報告など書く人の気くばりの番です。よろしくお願いします。チェルノブイリの事故。PやBでなくて良かったと胸をなでおろしている方もおられましょう。しかしAccidents will occur in the best-regulated families。とかのチャールズ・ディケンズが云っているそうです。ではこの辺で…

(喜多尾憲助記)